

昭和57. 3. 20

9. 痙攣発作時の筋収縮によりおこった股関節脱臼骨折の一症例

京都市立病院整形外科

武田 信巳・一坂 章

松本 学・吉河 正人

浜本 肇・森 英吾

患者は38才のがっしりとした体格のサラリーマンで、深夜イスに坐って麻雀中、誘因なく全身痙攣をおこし、同時に右股関節の脱臼骨折を受傷した。大腿骨頭は後外側部に骨頭の約1/3の遊離骨片があり、又、関節包の断裂とともに臼蓋後上縁にも骨折が認められた。受傷機点としては、股関節軽度屈曲内転外旋位において、強直間代性痙攣発作の際の強力な筋攣縮により大腿骨長軸方向のつき上げが起こり受傷したと考えられた。本症例は遊離骨片が大きく荷重面にもかかり残存する大腿骨頭の海綿骨も圧挫されていたので、整復できず大腿骨頭を摘出し Bateman 型人工骨頭に置換した。

